

## 包 括 的 公 表

平成 26 年 4 月～6 月に報告された医療事故のうち、包括的公表となる事例は下記のとおりです。

発生場所	概 略	再発防止策
外来	異なった規格で薬を調剤した。	調剤時の監査を徹底する。
外来	システム設定の誤りにより、処方と異なる単位で調剤した。	部内のマスタ新規作成時および修正時において、各担当者間の連携を徹底する。
外来	異なる薬剤を調剤した。	薬剤の棚配置を変更した。
入院	薬剤を過剰処方し、1回1錠多く内服した。	チーム内で処方のダブルチェックを行う。
入院	持参薬と院内処方薬を2日間重複して内服した。	持参薬を確認した後に処方し、薬剤情報を患者へ伝える。
入院	検査後、異なる薬剤を投与し、過鎮静になった。	鎮静剤を使用する時は原則点滴用ボトルを使用する。
入院	禁忌薬を1回投与した。健康被害はなかった。	薬剤の禁忌、注意項目などを確認して処方・投与する。

発生場所	概 略	再発防止策
外来	救急外来で異なる薬剤を皮下注射した。健康被害はなかった。	注射の際は、研修医・指導医・看護師等の複数人で薬剤の確認を行う。
入院	病態と異なる量の薬剤を1回投与した。健康被害はなかった。	添付文書を確認し、疑問がある時は専門診療科にコンサルトする。
外来	異なる遺伝子の検査を施行した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家系の検査を実施する際は、発端者の検査結果を持参させる。</li> <li>・結果がない場合は、検査施設で十分確認する。</li> </ul>
外来	異なる検査データを説明し、薬剤を処方した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査データを渡す前に名前を確認し、患者にも自分の名前であることを確認する。</li> <li>・検査データの氏名を大きくした。</li> </ul>
入院	組織診断の検体を紛失した。	特殊な検体は手搬送とし、容器に入れる。
入院	筋膜切開時、熱傷を生じた。	慎重に皮下組織両面を確認しながら切開する。
入院	末梢点滴を血流走行と逆向きに留置した。	通常と異なる事をする場合は、メンバー間で相談し、検討する。